

・利用児・者間の関わり（利用児・者同士、利用児・者と職員、利用児・者と家族の関係等）について総合的に捉え、理解を深める。

・健康・安全管理に関する対応や衛生面での配慮、および環境整備（室温、換気、清掃など）の方法を学ぶ。

○責任実習（部分）・レクリエーション等

・利用児・者に対する保育士としての専門性を活かしたかかわり方を学ぶ。

・保育士の仕事に積極的に参加し、生活介助やレクリエーションなどの養護内容や保健、安全などについて体験から理解する。

・支援計画を実習担当者の指導のもとにつくり、保育（養護）を実践する。

・実習の内容は対象者の能力の度合いや運動の制約、発達状況を考慮し、利用児・者が楽しく参加できるよう工夫する。

・疑問点等は、実習担当者に積極的に質問し、それについて反省し、指導を受ける。

〈留意点〉

・実習施設の概要、目的、方針、社会的役割等を理解する。

・利用児・者数や措置理由等について理解する。

・利用児・者の名前、年齢、特徴を早く覚える。

・デイリープログラムを理解し、積極的な姿勢で実習に臨む。

・自らの考えや課題を持って、利用児・者の指導にあたる。

・実習先の施設については、予め利用児・者に対する指導方法等について、基本的な知識を得た上で実習に臨む。

・利用児・者の安全や保健（室内外の環境面や顔色、機嫌、体調などの健康面）および留意点を十分に把握しておく。

・利用児・者の保育・指導については、特に以下の3点に留意する。 ①平等な対応 ②指導内容が明確な態度 ③自立を見据えた支援

・利用児・者を観察する際には、常に視野を広く保ち、死角を作らないような配慮を心がける。

・指導方法、仕事内容が不明な場合は、実習担当者に確認するようにする。

・コミュニケーションがとりにくい利用児・者についても、さまざまな反応に目を向けて理解しようと努める。

・宿泊による実習の場合は、勤務時間後も施設の注意事項や利用規定、規則（食事、入浴、洗濯、宿舎の管理、外出等）を遵守する。

成績評価	実習先の評価(50%)　　日誌・記録等(50%)　　合計 100%		
教員からのコメント	① 実習中は体調管理に注意し、10日間遅刻や欠勤をしないように取り組んでください。また、報告、連絡、相談を徹底し、施設、大学、保育実習指導IIIの担当指導教員との連携を大切にしてください。 ② 挨拶、礼儀、マナーを守りましょう。 ③ 明るく、素直に、元気良く、積極的な姿勢で実習に臨みましょう。 ④ 利用児・者の「生活の場・活動の場」入っての実習であることを忘れないようにしましょう。 ⑤ 社会福祉、児童家庭福祉、社会的養護、相談援助、障害児保育などの関連科目についても理解を深めたうえで実習に臨みましょう。 ⑥ 実習の際には、実習指導資料を常に傍に置き、参考にしましょう。		
教科書	書名 著者 発行所	推薦図書	書名 著者 発行所